

授業科目	看護情報学 I	単位数	2	時間数	30		
担当者名	外部講師・専任教員	実務経験	有	学年	1	開講学期	1
科目目標	看護にとっての「情報とは何か」について学び、情報の「いかし方」と「守り方」を理解する 看護における情報通信技術(ICT)活用の基盤となる基礎知識とコンピューターリテラシーを身につける						
授業計画・授業内容							
<p>担当：外部講師</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の定義と特徴 2. 社会と情報 <p>担当：専任教員</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 保健医療と情報 4. 看護と情報 5. 医療における情報システム 6. 情報倫理と医療・患者の権利と情報・個人情報の保護 7. 看護学生としての情報管理と責任 <p>担当：外部講師</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. コンピューターリテラシーとセキュリティ 9. コンピューター・ソフトの基本操作(演習) ～ ①パソコンのしくみと基本操作、ファイル管理 14. ②ワープロソフトの使い方(Word) ③PowerPoint の基本操作(PowerPoint) <ol style="list-style-type: none"> 15. 試験 							
教科書	系統看護学講座 看護情報学 (医学書院)						
参考書	必要に応じて紹介する。						
評価方法	筆記試験、レポート、演習課題等						
備考	1.2. 8～15 は講師が担当、3～7 は教員が担当する。 パソコン (情報科学室) を使用して課題演習を行う為、USB を持参する。						

授業科目	論理学	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	1	開講学期	1
科目目標	1. 論理的思考の基礎を理解し、事象の客観的・系統的な思考力、判断力を養う 2. 事象もしくは自らの考えを的確に論理的に言語、文章により表現する能力を養う						
授業計画・授業内容							
1. 理解・納得・共感を得るうえで重要なこと 2. 論理的に結論に導く 3. 論理と命題記号 4. 可能世界と命題の真偽値 5. 恒真式 6. 推論 7. 述語論理・練習問題 8. 試験							
教科書	講師作成資料						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	言語表現法	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	1	開講学期	1
科目目標	書記言語を用いた言語表現について、目的意識・相手意識・状況意識等に基づいて工夫する方法について理解し、また、工夫することの重要性を認識すること						
授業計画・授業内容							
1. 話し言葉と書き言葉（日本語の性質を学ぶ） 2. 漢字の学習方法について考える 3. モデルの文章を分析する 4. 関連図作成 5. レイアウトを考える・相談する 6. レイアウトについて人の意見をもらう・考える 7. アプリの記事 総合評価 8. 試験							
教科書	講師作成資料						
参考書							
評価方法	筆記試験（レポート）						
備考							

授業科目	人間関係論	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	1	開講学期	1
科目目標	実際の対人関係の体験から、自己の心の動き、他者の理解を深めていく						
授業計画・授業内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガードナーの多能的知能理論 2. TST 私は誰だろう 3. 人生のトーク 4. OK リストを作ろう 5. 私の魅力をみつけてもらおう 6. 人の話が聴けない理由 7. 五人の物語：周りの考え方を知る 8. 試験 							
教科書	看護の中の看護活動 中巻 (HATO 書房)						
参考書							
評価方法	筆記試験 (レポート)						
備考	2日間の集中講義の日程で行います						

授業科目	倫理学	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師	実務経験	無	学年	1	開講学期	1
科目目標	現在、医療現場における倫理的問題を理解し、将来医療者として倫理的ジレンマを冷静に受け止め、その解決への道を探るための倫理的思考力を身につける						
授業計画・授業内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理・倫理学とは 2. インフォームド・コンセントと患者の自己決定権 3. インフォームド・コンセントにおける看護師の役割 4. 守秘義務と個人情報保護 5. 病院での実習と倫理：守秘義務 6. 医療技術の進歩と倫理—新型出生前診断 7. 脳死と臓器移植 8. まとめ・試験 							
教科書	講師作成資料						
参考書							
評価方法	筆記試験 (レポート)						
備考	関連科目：看護倫理 (2年次)						

授業科目	人体の構造と機能Ⅰ(解剖学)	単位数	2	時間数	60		
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	1	開講学期	1
科目目標	人体の発生、形態を系統的に理解する						
授業計画・授業内容							
1. 序論		18.19. 生殖器系					
2. 人体とその構造		20. 人の発生学					
3.4.5. 骨筋系		21. 内分泌系					
6. プレテスト		22.23. 神経系					
7.8.9. 循環器系		24. プレテスト					
10.11. 呼吸器系		25. 伝達路					
12.13.14.15. 消化器系		26.27. 脳神経					
16.17. 泌尿器系		28.29. 感覚器系					
		30. 試験					
教科書	系統別看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院) カラーアトラス人体 解剖と機能 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考	関連科目 2年次 人体の構造と機能演習						

授業科目	人体の構造と機能Ⅱ(生理学)	単位数	2	時間数	60		
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	1	開講学期	1
科目目標	人体のはたらきを系統的に理解する						
授業計画・授業内容							
1.2. 序論 ホメオスタシス		16.17. 内分泌系					
3.4. 血液の生理学		18.19. プレテスト					
5.6.7. 循環系の生理学		20.21. 神経系					
8.9. 呼吸系の生理学		22.23. 運動系①					
10.11. 消化と吸収		24.25. 運動系②					
12.13. エネルギー代謝と体温調節		26.27. 感覚器①					
14.15. 腎臓の機能		28.29. 感覚器②					
		30. 試験					
教科書	系統別看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	生化学	単位数	1	時間数	30				
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	1	開講学期	1		
科目目標	人体の構成成分である化学物質の性状、その分布および代謝について理解する								
授業計画・授業内容									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 生化学の基礎、生体分子～細胞～生体 2. 代謝の基礎、栄養・消化・吸収・代謝 3. 糖質 4. 糖質代謝 5. 脂質 6. 脂質代謝 7. タンパク質 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 8. タンパク質代謝 9. ビタミン 10. ポルフィリン 11. シグナル伝達とホルモン 12. 遺伝子と核酸 13. 遺伝子の複製・修復・組換え 14. 転写・翻訳・がん 15. 試験 </td> </tr> </table>								1. 生化学の基礎、生体分子～細胞～生体 2. 代謝の基礎、栄養・消化・吸収・代謝 3. 糖質 4. 糖質代謝 5. 脂質 6. 脂質代謝 7. タンパク質	8. タンパク質代謝 9. ビタミン 10. ポルフィリン 11. シグナル伝達とホルモン 12. 遺伝子と核酸 13. 遺伝子の複製・修復・組換え 14. 転写・翻訳・がん 15. 試験
1. 生化学の基礎、生体分子～細胞～生体 2. 代謝の基礎、栄養・消化・吸収・代謝 3. 糖質 4. 糖質代謝 5. 脂質 6. 脂質代謝 7. タンパク質	8. タンパク質代謝 9. ビタミン 10. ポルフィリン 11. シグナル伝達とホルモン 12. 遺伝子と核酸 13. 遺伝子の複製・修復・組換え 14. 転写・翻訳・がん 15. 試験								
教科書	系統別看護学講座 専門基礎分野 生化学 (医学書院)								
参考書									
評価方法	筆記試験								
備考									

授業科目	微生物学	単位数	1	時間数	30				
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	1	開講学期	1		
科目目標	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、その対応について修得する								
授業計画・授業内容									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 微生物の概念と変遷 2. 感染症について 3. 化学療法 4. 病原細菌と細菌感染症 5. 腸内細菌科 6. 結核菌、マイコプラズマ、リケッチア 7. 真菌、原虫 8. 試験(1～7) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. 細菌とウイルスの違い 10. 感染症について 11. DNA ウイルスについて 12. RNA ウイルスについて① 13. RNA ウイルスについて② 14. RNA ウイルスについて③ 15. HIV と肝炎ウイルス 16. 試験(9～16) </td> </tr> </table>								1. 微生物の概念と変遷 2. 感染症について 3. 化学療法 4. 病原細菌と細菌感染症 5. 腸内細菌科 6. 結核菌、マイコプラズマ、リケッチア 7. 真菌、原虫 8. 試験(1～7)	9. 細菌とウイルスの違い 10. 感染症について 11. DNA ウイルスについて 12. RNA ウイルスについて① 13. RNA ウイルスについて② 14. RNA ウイルスについて③ 15. HIV と肝炎ウイルス 16. 試験(9～16)
1. 微生物の概念と変遷 2. 感染症について 3. 化学療法 4. 病原細菌と細菌感染症 5. 腸内細菌科 6. 結核菌、マイコプラズマ、リケッチア 7. 真菌、原虫 8. 試験(1～7)	9. 細菌とウイルスの違い 10. 感染症について 11. DNA ウイルスについて 12. RNA ウイルスについて① 13. RNA ウイルスについて② 14. RNA ウイルスについて③ 15. HIV と肝炎ウイルス 16. 試験(9～16)								
教科書	系統別看護学講座 専門基礎分野 微生物学 (医学書院)								
参考書									
評価方法	筆記試験								
備考									

授業科目	病理学	単位数	1	時間数	30				
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	1	開講学期	2		
科目目標	病因と病変の特徴を理解する								
授業計画・授業内容									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 病理学 総論 2. 局所循環障害・炎症 3. 感染症・免疫系・腫瘍・先天性心疾患 4. 血管・消化器系 5. 骨髄・リンパ節 6. 神経系・筋疾患 7. 病理診断について </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 8. 腫瘍について 9. 呼吸器 10. 生殖系 11. 乳腺 12. 感覚器系 13. 内分泌 14. 泌尿器 15. 試験 </td> </tr> </table>								1. 病理学 総論 2. 局所循環障害・炎症 3. 感染症・免疫系・腫瘍・先天性心疾患 4. 血管・消化器系 5. 骨髄・リンパ節 6. 神経系・筋疾患 7. 病理診断について	8. 腫瘍について 9. 呼吸器 10. 生殖系 11. 乳腺 12. 感覚器系 13. 内分泌 14. 泌尿器 15. 試験
1. 病理学 総論 2. 局所循環障害・炎症 3. 感染症・免疫系・腫瘍・先天性心疾患 4. 血管・消化器系 5. 骨髄・リンパ節 6. 神経系・筋疾患 7. 病理診断について	8. 腫瘍について 9. 呼吸器 10. 生殖系 11. 乳腺 12. 感覚器系 13. 内分泌 14. 泌尿器 15. 試験								
教科書	系統別看護学講座 専門基礎分野 病理学 (医学書院)								
参考書									
評価方法	筆記試験								
備考									

授業科目	臨床治療論 (ME・麻酔・検査・リハビリ・放射線)			単位数	1	時間数	30
担当者名	病院 臨床工学士・ 医師 臨床検査技師・理学療法士	実務 経験	臨床での 診療・治療	学年	1	開講学期	2
科目目標	臨床で行う治療に伴う検査や医療機器等について理解する						
授業計画・授業内容							
放射線療法：杉原 修司 (8) <ul style="list-style-type: none"> 1. 放射線の原理と注意点 2. 放射線検査について 3. 放射線治療について 4. レントゲン、CT、MRI と読影の方法について ME 機器：布野 龍也 (4) <ul style="list-style-type: none"> 9. ME 機器の取り扱いについて 10. 測定用医療機器の原理と実際 臨床検査：久本 輝美 (4) <ul style="list-style-type: none"> 11. 臨床検査について 12. 臨床検査に関する演習問題 麻酔法：上田 敬一郎 (7) <ul style="list-style-type: none"> 5. 麻酔の種類と方法 6. 全身麻酔と局所麻酔について 7. 呼吸管理について リハビリテーション：谷 周治 (7) <ul style="list-style-type: none"> 13. リハビリテーションとは 14. リウマチ・パーキンソン・ COPD 患者への適応リハビリ 15. 移乗動作演習 8. 試験(放射線治療・麻酔法) <ul style="list-style-type: none"> 16. 試験(ME 機器・検査・リハビリ) 							
教科書	系統別看護学講座 専門分野 臨床看護総論 (医学書院) 系統別看護学講座 別巻 臨床外科総論 (医学書院) 系統別看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)						
参考書	系統別看護学講座 別巻 臨床放射線医学 (医学書院) 系統別看護学講座 別巻 臨床検査 (医学書院)						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	疾病論 I (呼吸器・アレルギー膠原病・感染症・皮膚)			単位数	1	時間数	30
担当者名	病院医師・外部講師 (医師)	実務 経験	臨床での 診療	学年	1	開講学期	2
科目目標	健康障害時の対象を理解するために各系統別に代表する疾患、診断、治療及び検査を学ぶ						
授業計画・授業内容							
<p>呼吸器：富田 桂公・唐下 泰一・池内 智行 (15) 自己免疫疾患他：富田 桂公 (6)</p> <p>1. 呼吸器系の症状とその病態生理 10. 自己免疫疾患</p> <p>2. 呼吸器系の検査と治療① 11. アレルギー</p> <p>3. 呼吸器系の検査と治療② 12. 膠原病</p> <p>4. 呼吸器系の検査と治療③</p> <p>5. 間質性肺炎 皮膚疾患：鳥取大学皮膚科医師 (6)</p> <p>6. 気道疾患 13. 皮膚の構造・機能</p> <p>7. 肺疾患 14. 皮膚科の疾患と診断・治療</p> <p>感染症：千酌 浩樹・椋田 権吾 (4) 15. 試験</p> <p>8. 感染症について</p> <p>9. 感染症の疾患と診断・治療</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 感染アレルギー膠原病 (医学書院) ナーシンググラフィカ Ex 疾患と看護 ⑥眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 (メディカ出版)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	疾病論II(循環器・腎臓・血液造血器)			単位数	1	時間数	30
担当者名	病院医師	実務 経験	臨床での 診療	学年	1	開講学期	1 2
科目目標	健康障害時の対象を理解するために各系統別に代表する疾患、診断、治療及び検査を学ぶ						
授業計画・授業内容							
循環器：福木 昌治・久留一郎 (11) 1. 循環器系の症状とその病態生理 2. 心不全 3. 高血圧 4. 虚血性心疾患 5. 不整脈 腎・泌尿器：磯山 忠宏 (10) 6. 腎・泌尿器の構造と機能 7. 泌尿器系疾患の原因・病態・症状① 8. 泌尿器系疾患の原因・病態・症状② 9. 腎臓系の疾患と診断・治療 10. 透析療法と腎移植				血液・造血器：川谷 俊夫 (9) 11. 血液・造血器系の症状と その病態生理、貧血 12. 白血病の病態と診断・治療について 13. リンパ腫と多発性骨髄腫の病態と 診断・治療について 14. 白血病の病態・治療について 15. 試験			
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学	循環器 (医学書院)	系統看護学講座 専門分野 成人看護学	腎・泌尿器 (医学書院)	系統看護学講座 専門分野 成人看護学	血液・造血器 (医学書院)	
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	疾病論Ⅲ(消化器・内分泌代謝・女性生殖器)			単位数	1	時間数	30
担当者名	病院医師	実務 経験	臨床での 診療	学年	1	開講学期	2
科目目標	健康障害時の対象を理解するために各系統別に代表する疾患、診断、治療及び検査を学ぶ						
授業計画・授業内容							
消化器 内科的治療：大山 賢治 1. 上部消化管（食道・胃・十二指腸）の病態生理と検査・治療 2. 下部消化管（小腸・大腸）の病態生理と検査・治療 3. 肝臓・胆・膵（胆管・胆嚢・膵臓）疾患の病態生理・治療				内分泌疾患：角 啓佑（6） 8. 内分泌疾患の病態生理、診断と治療 9. 糖尿病の病態生理と診断 10. 糖尿病の治療 女性生殖器：脇田 邦夫（8） 11. 生殖器の構造と機能・家族計画 12. 生殖器の診察・検査・治療と処置 13. 生殖器の疾患の理解① 子宮頸がん、子宮筋腫、子宮内膜症 14. 生殖器の疾患の理解② 卵巣の疾患、不妊症、性感染症			
消化器 外科的治療：山本 修 4. 外科療法総論 5. 外科的治療：食道がん・胃がん 6. 外科的治療：虫垂炎、イレウス、結腸がん・直腸がん、人工肛門、 7. 外科的治療：肝臓がん、胆道系疾患、膵臓がん				15. 試験			
※消化器併せて（15）							
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学	消化器	（医学書院）				
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学	内分泌・代謝	（医学書院）				
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学	女性生殖器	（医学書院）				
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	疾病論Ⅳ（脳神経・運動器）			単位数	1	時間数	30
担当者名	病院医師・外部講師（医師）	実務 経験	臨床での 診療	学年	1	開講学期	2
科目目標	健康障害時の対象を理解するために各系統別に代表する疾患、診断、治療及び検査を学ぶ						
授業計画・授業内容							
脳神経：足立 晶子・安井 建一（15）		運動器：遠藤 宏治・林原 雅子（15）					
1. 脳神経系の構造と機能		8. 運動器系の構造と機能					
2. 脳神経系の主な症状とその病態生理		9. 運動器系疾患の検査・診断					
3. 検査・診断と治療・処置①		10. 運動器系疾患の治療					
4. 脳疾患の理解		11. 外因性の運動器疾患					
5. 脊髄疾患、末梢神経疾患、 筋疾患・神経筋接合部疾患		1) 外傷性					
6. 脱髄疾患、変性疾患、認知症		12. 外因性の運動器疾患					
7. 脳神経系の感染症、中毒、てんかん、 頭痛		2) 脱臼・捻挫・打撲・神経損傷					
		13. 内因性の運動器疾患					
		1) 先天性疾患					
		14. 内因性の運動器疾患					
		2) 骨粗鬆症・脊椎疾患					
		15. 試験					
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 脳・神経（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 運動器（医学書院）						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	薬理学	単位数	1	時間数	30		
担当者名	病院薬剤師	実務経験	臨床での調剤業務	学年	1	開講学期	2
科目目標	薬物の特徴、作用機序および薬物の管理について理解する						
授業計画・授業内容							
1. 薬理学総論 2. 薬理の相互作用について 3. 抗感染症薬 4. 抗がん剤 5. 免疫治療薬 6. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 7. 末梢での神経活動に作用する薬物 8. 中枢神経系に作用する薬物 9. 循環器系に作用する薬物 10. 呼吸・消化器・生殖系に作用する薬物 11. 物質代謝に作用する薬物 12. 皮膚科用薬・眼科用薬 13. 救急の際に使用される薬物、漢方薬 14. 消毒薬、輸血製剤・輸血剤 15. 試験							
教科書	系統別看護学講座 専門基礎分野 薬理学 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	栄養学	単位数	1	時間数	15		
担当者名	病院栄養管理室長	実務経験	臨床での栄養管理	学年	1	開講学期	1
科目目標	人間にとっての栄養の意義を理解し、健康を維持するための適切な栄養について考察する 各疾患における食事療法の意義と実際について理解する						
授業計画・授業内容							
1. 栄養の意義と栄養学の目的 2. 食物摂取とその消化吸收 3. 食事・栄養の資材とその栄養価、食べる機能について 4. 消化器疾患と栄養食事療法 5. 疾患・症状別食事療法 6. 糖尿病と食事療法 7. 健康生活と食生活 8. 試験							
教科書	系統別看護学講座 専門基礎分野 栄養学 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	看護学概論	単位数	1	時間数	30		
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・ 教育・看護管理	学年	1	開講学期	1
科目目標	看護を志す初学者として、看護とは何かを学び、看護の対象の理解を深めるとともに、看護職者が実践する看護とは、どのような活動なのか、その機能と役割について学ぶ						
授業計画・授業内容							
1. 看護とは		11.12. 国民の健康状態と生活					
2.3.4. 看護の歴史		1) 国民の健康の全体像について					
5.6. 看護の提供者		2) 人々の生活と健康に関する統計データ					
7.8. 看護の対象の理解		13. 看護の提供の仕組み					
1) 人間のこころとからだ		1) サービスとしての看護と看護サービス提供の場					
2) 生活者としての人間		2) 医療安全と医療の質保証					
9.10. 健康のとらえ方		3) 広がる看護の活動領域					
1) 健康とはなにか		14. 看護における倫理					
2) 健康な状態、健康でない状態		15. 試験					
教科書	系統別看護学講座 専門分野 看護学概論 (医学書院) 看護覚え書 -看護であること看護でないこと- (現代社) 看護の基本となるもの (日本看護協会出版社)						
参考書	国民衛生の動向 (厚生統計出版会)						
評価方法	筆記試験、演習参加度、演習成果で総合評価						
備考							

授業科目	看護技術論	単位数	1	時間数	15		
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	看護技術を学ぶ必要性について理解し、看護をするうえで欠かせない人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を修得する						
授業計画・授業内容							
1. 技術とは 看護技術の特徴、看護技術の範囲		4. コミュニケーションの構成要素と成立過程、 プロセスレコード					
2. 看護技術を適切に実践するための要素 看護技術の発展と修得のために		5. 関係構築のためのコミュニケーション					
3. コミュニケーションの意義と目的		6. 効果的なコミュニケーションの実際					
		7. コミュニケーション障害のある人への対応					
		8. 試験					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	看護の中の物理	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	1	開講学期	1
科目目標	人体や医療に関する物理現象と日常の身近な物理現象から物理的に解釈するセンスを養い、人体のメカニズムを理解する						
授業計画・授業内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 力学・力とは 2. 力のモーメント 3. 看護ボディメカニクスの物理 4. 身近な圧力 5. 大気圧 6. てこの原理 7. 血圧が測定できる理由 8. 試験 							
教科書	看護学生のための物理学 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	看護診断と看護過程	単位数	1	時間数	30		
担当者名	専任教員	実務経験	教育	学年	1	開講学期	2
科目目標	対象の持つ健康上の問題を明らかにして、その健康問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する						
授業計画・授業内容							
1. 看護の基盤となる考え方 1) 看護の目的と機能 2) 看護過程とは 3) 看護過程の基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) リフレクション (4) 問題志向型システム (5) 臨床判断 2. 看護モデルとアセスメントの枠組み 1) ヘンダーソン 2) ロイ 3) オレム 4) ゴードンの11の機能的健康パターン 3～8. 看護診断過程 (演習含む) 1) 情報収集・アセスメント (1) 情報の種類、情報源、情報収集の方法 (2) アセスメントの種類・時期・方法 2) 看護診断 (1) 看護診断の種類 (問題焦点型、リスク型、ヘルスプロモーション型、シンドローム型)、共同問題 (2) 看護診断の照合・記述方法 (3) 優先順位の決定 3) 関連図				9～13. 看護実践過程 (演習含む) 1) 看護計画 (1) 目標・成果・成果指標 (2) 介入計画 (O-P、C-P、E-P) 2) 実施・評価 (1) SOAP形式 (2) 介入計画に沿った実施 (演習) (3) 目標・成果の達成度評価 (4) 達成度に影響を与えた因子 (5) 追加・修正 14. 医療における記録 15. 試験			
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I (医学書院) 看護がみえる vol.4 看護過程 (メディックメディア)						
参考書	看護診断ハンドブック (医学書院) 検査値ハンドブック (成美社)						
評価方法	筆記試験 80%・課題 20%で総合評価						
備考	紙上事例を用いて看護診断と看護過程を学習する						

授業科目	感染防止と環境を整える援助技術			単位数	1	時間数	30
担当者名	病院 感染管理係長 専任教員	実務経験	臨床感染管理・ 臨床看護実践/教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	1. 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、標準予防策・感染経路別予防策を学ぶ 2. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと整備について学ぶ 3. 洗浄・消毒・滅菌の実際、感染性廃棄物の取り扱い、無菌操作について学ぶ						
授業計画・授業内容							
担当：病院感染管理係長 1. 感染防止の技術 1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策 3) 感染経路別防止策 4) 感染性廃棄物の取り扱い 2. 演習：標準予防策・衛生的手洗い 担当：専任教員 3・4. 人にとって快適な環境とは 環境の構成要素 1) 日常生活と療養生活の環境 2) 病室および病床環境のアセスメントと調整 5・6. 演習：環境測定 7. ベッドメイキング・リネン交換の原理と方法 8・9. 演習：ベッドメイキング 10・11. 演習：臥床患者のシーツ交換 12. 技術チェック：ベッドメイキング 13. 感染防止の技術 1) 洗浄・消毒・滅菌 2) 無菌操作 14・15 演習：無菌操作 16. 試験 (1時間)							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考	入学後すぐに、感染防止の基礎を得て衛生的手洗いや標準予防策を身につけます。 看護学生として確実に行い、自らの感染防止に活かし、努めていきましょう。						

授業科目	活動と体位保持の援助技術			単位数	1	時間数	15
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解し、体位変換や体位保持の援助ができる						
授業計画・授業内容							
1. 姿勢を保ち、活動を整える援助 1) 姿勢・活動に関する基礎知識 2) 体位 3) ボディメカニクス 2. 体位変換の実際：援助の基礎知識 3. 演習：体位変換の実際 4. 演習：体位保持（ポジショニング） 5. 移動・移乗の援助 1) 歩行介助、杖、松葉杖、歩行器 2) 車椅子 3) ストレッチャー 6. 演習：移動・移乗の援助の実際 7. 技術チェック：移動・移乗の援助の実際 8. 試験							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術II (医学書院) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	睡眠・休息と安楽確保の援助技術			単位数	1	時間数	15
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	1. 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠に障害をもつ患者への援助を理解する 2. 罨法の種類と罨法が身体に及ぼす影響を理解する 3. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする援助技術について理解する						
授業計画・授業内容							
1. 睡眠・休息の援助 1) 人にとって睡眠・休息の必要性 サーカディアンリズム 2) 睡眠・休息の障害の人への影響 2. 睡眠に障害をもつ患者への援助 3. 安楽とは 交感神経と副交感神経、安楽の阻害因子 4.5. 安楽確保の技術 罨法とは 演習：温罨法・冷罨法 6.7. 身体ケアを通じてもたらされる安楽 リラクゼーションとは 演習：漸新的筋弛緩法・熱布バックケア マッサージ 8. 試験							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術II (医学書院) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	清潔・衣生活の援助技術			単位数	1	時間数	30
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1-2
科目目標	1. 清潔・衣生活の意義や目的、援助におけるアセスメントの視点を理解する 2. 清潔・衣生活の援助に必要な基本的知識を理解する 3. 清潔・衣生活に関する基本的な援助の方法を習得する						
授業計画・授業内容							
1. 清潔の援助の基礎知識 1) 皮膚・粘膜の構造と機能 2) 清潔援助の効果 3) 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 2. 衣生活の援助の基礎知識 1) 衣服を用いることの意義 2) 熱発生と熱放散、衣服気候 3) 衣生活に関するニーズのアセスメント 4) 衣生活の援助の実際 3～5. 全身清拭・寝衣交換 1) 援助の基礎知識 2) 臥床患者の全身清拭・寝衣交換の実際（演習） 6.7. 手浴・足浴 1) 援助の基礎知識 2) 手浴・足浴の実際（演習） 8～10. 洗髪 1) 援助の基礎知識 2) 洗髪器を使用した洗髪の実際（演習） 11. 入浴、シャワー浴 1) 援助の基礎知識 12. 口腔ケア・整容 1) 口腔内の構造と機能 2) 口腔ケア、整容の方法 13.14. 臥床患者の全身清拭・寝衣交換（技術チェック） 15. 試験							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考	授業以外の空き時間を活用して、グループ・個人で話し合いや演習を行い、技術を習得できるよう、主体的かつ計画的に進めていきましょう						

授業科目	食事と排泄の援助技術			単位数	1	時間数	30
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	人間にとって「食べる」「出す」の営み(行動)が適切に行えることの意義を理解し、最も自然で効果的な方法で行えるための援助方法について学ぶ 同時に障害がある場合の援助や処置についても学ぶ						
授業計画・授業内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事援助の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事の意義 2) 食べるために必要な機能 2. 摂食能力・栄養状態のアセスメントと管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 摂食能力 2) 栄養状態および水分・電解質バランス 3. 食事援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 目的と適応 2) 食事動作が自力ではできない人の援助の実際 演習：食事介助 4. 非経口栄養法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 経管栄養法・経静脈栄養法の分類と特徴、経鼻経管栄養法の実際 5. 演習：経鼻経管栄養法 6. 排泄の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 排泄の意義 2) 排尿・排便のメカニズム 3) 排尿・排便のアセスメント 7. 自然排尿および自然排便の介助の実際 8. 演習：自然排尿および排便の介助の実際（トイレ、ポータブルトイレ） 9. 演習：床上排泄援助（尿器、便器） 10. 演習：おむつによる排泄援助 11. 演習：陰部洗浄 12. 排泄障害の種類・要因と援助の実際 13. 演習：浣腸、摘便 14. 演習：導尿（一時的・持続的）、膀胱留置カテーテルの管理 15. 試験 							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考	解剖学、生理学で学んだ消化器系の内容を復習し、講義・演習に臨んでください						

授業科目	フィジカルアセスメント			単位数	1	時間数	30
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	患者を正確に診るために必要な身体査定法について、科学的根拠に基づいて習得する						
授業計画・授業内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2. 正しいバイタルサイン測定の方法と留意点 3. バイタルサイン測定の手順と使用物品の特性 4. 5. バイタルサイン測定の実際（体温・呼吸・脈拍・SpO²・血圧） 6. 技術チェック：バイタルサイン測定 7. フィジカルアセスメントに必要な技術、身体計測 8. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 9. 演習：呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 10. 循環器系のフィジカルアセスメント 11. 演習：循環器系のフィジカルアセスメントの実際 12. 乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメント 13. 演習：腹部のフィジカルアセスメントの実際 14. 神経系のフィジカルアセスメント 頭頸部と感覚器（眼・鼻・口）のフィジカルアセスメント 15. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 16. 試験 							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I （医学書院） 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント （メディックメディア）						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	地域の人々とくらし			単位数	1	時間数	15
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	1
科目目標	暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する						
授業計画・授業内容							
1. 暮らしということ ・子どもを生ま育てる ・学ぶ ・働く ・病を治す ・老いとともに生きる ・最期を迎える 2. 支え合って生きるとは ・家族 ・仲間 ・近隣の人々 ・学校や職場 ・支え合い 3.4 地域の生活環境が健康に与える影響 ・文化的環境 ・社会的環境 ・自然環境 5. 人々の暮らしと地域・在宅看護 6.7. 暮らしの基盤としての地域の理解 8. 試験							
教科書	系統別看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の基礎 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験・課題レポート						
備考							

授業科目	成人看護学概論			単位数	1	時間数	30
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	2
科目目標	1. 成人期にある対象の特徴を理解する 2. 成人期にみられる健康障害を理解する 3. 成人期にある対象の看護に有効な概念について理解する						
授業計画・授業内容							
1. 成人の理解、働いて生活を営むこと 2. 成人をとりまく環境と生活からみた健康 3. 生活と健康をまもりはぐくむシステム 4～6. 成人への看護アプローチの基本 7～13. 成人の健康レベルや状態に対応した看護 1) ヘルスプロモーションと看護 2) 健康をおびやかす要因と看護 3) 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 4) 慢性病とともに生きる人を支える看護 5) 障害がある人とリハビリテーション 6) 人生最期のときにおける医療の現状 14. さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 15. 新たな治療法、先端医療と看護 16. 試験							
教科書	系統別看護学講座 専門分野 成人看護学 成人看護学総論 (医学書院)						
参考書	国民衛生の動向 (厚生統計出版会)						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	成人看護実践方法論 I (呼吸機能・腎機能・内分泌機能に障害のある患者の看護)			単位数	1	時間数	30
担当者名	病院 看護師 外部講師 (松江医療 C 看護師)	実務 経験	臨床での 看護実践	学年	1	開講学期	2
科目目標	健康障害時の対象に行う看護を理解するために、各系統別に代表する疾患から看護を学ぶ						
授業計画・授業内容							
<p>呼吸器疾患患者の看護：河原 真実 (10)</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性閉塞性肺疾患の特徴と看護 肺がんの特徴と看護 酸素療法を受ける患者の看護 気管切開・人工呼吸器装着する患者の看護 在宅酸素療法の看護 <p>腎疾患患者の看護：須山 瑞帆 (8)</p> <ol style="list-style-type: none"> 腎臓機能、腎不全とその症状の看護 慢性腎臓病の経過と看護 透析の条件・バスキュラーアクセスの看護 血液透析を受ける患者の指導 腹膜透析を受ける看護と指導 腎移植を受ける患者の看護 <p>糖尿病患者の看護：遠藤 朋子 (12)</p> <ol style="list-style-type: none"> 糖尿病の特徴と看護 食事療法の支援 運動療法の支援 薬物療法とインスリン療法の看護 糖尿病の急性合併症と看護 糖尿病の慢性合併症と看護 演習：自己血糖測定 試験 (呼吸器疾患・腎疾患・糖尿病患者の看護) 							
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 内分泌・代謝 (医学書院)						
参考書	系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 成人看護学総論 (医学書院) 経過別看護過程の展開 (学研)						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	成人看護実践方法論II (循環機能・造血機能・脳神経系に障害がある患者の看護)			単位数	1	時間数	30
担当者名	専任教員 病院 看護師 外部講師 (松江医療 C 看護師)	実務 経験	臨床での 看護実践	学年	1	開講学期	2
科目目標	健康障害時の対象に行う看護を理解するために、各系統別に代表する疾患から看護を学ぶ						
授業計画・授業内容							
脳血管疾患患者の看護：川上 佐代 (10) 1. 脳卒中により障害をもちながら生活すること 脳卒中の病態と種類による特徴と機能障害の看護 2. 脳卒中の急性期治療を受ける患者の看護 1) 病態、治療、来院時・入院～手術までの看護 2) 術直後～術後14日・回復期～退院までの看護 3. リハビリテーションとの連携と生活行動の援助 脳神経疾患患者の看護：寺田 航大 (4) 4. ALS・神経筋難病患者の看護の特徴 5. ALS・神経筋難病患者の看護の実際 6. 試験 (1) 脳血管疾患患者の看護				循環器疾患患者の看護：(10) 1. 虚血性心疾患の特徴と看護 2. 心臓弁膜症の特徴と看護 3. 末梢閉塞性動脈疾患の特徴と看護 4. 心不全患者の看護 血液疾患患者の看護：(4) 1. 急性骨髄性白血病の特徴と看護 2. 悪性リンパ腫の特徴と看護 3. 試験 (1) 循環器疾患患者の看護・血液疾患患者の看護			
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 脳神経 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 血液・造血器 (医学書院)						
参考書	系統看護学講座 専門分野II 成人看護学 成人看護学総論 (医学書院) 経過別看護過程の展開 (学研)						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	老年看護学概論			単位数	1	時間数	30		
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期	2		
科目目標	老年期の加齢による特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、老年期に見られる健康問題、および、老年の保健医療福祉の場における現状をから老年看護の機能と役割を理解する								
授業計画・授業内容									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 老いるということ、老いを生きるということ 2.3. 演習：高齢者疑似体験 4. 加齢と老化（身体的・心理的・社会的） 5. フレイル 6. 老年看護の成り立ち 7.8. 超高齢社会と社会保障 老人保健法、高齢者医療制度、介護保険 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. 高齢者の死亡について 10. 高齢者とヘルスプロモーション 11.12. 高齢者の生活の場における看護 13. エンド・オブ・ライフケア 14. 高齢者のリスクマネージメント 15. 試験 </td> </tr> </table>								1. 老いるということ、老いを生きるということ 2.3. 演習：高齢者疑似体験 4. 加齢と老化（身体的・心理的・社会的） 5. フレイル 6. 老年看護の成り立ち 7.8. 超高齢社会と社会保障 老人保健法、高齢者医療制度、介護保険	9. 高齢者の死亡について 10. 高齢者とヘルスプロモーション 11.12. 高齢者の生活の場における看護 13. エンド・オブ・ライフケア 14. 高齢者のリスクマネージメント 15. 試験
1. 老いるということ、老いを生きるということ 2.3. 演習：高齢者疑似体験 4. 加齢と老化（身体的・心理的・社会的） 5. フレイル 6. 老年看護の成り立ち 7.8. 超高齢社会と社会保障 老人保健法、高齢者医療制度、介護保険	9. 高齢者の死亡について 10. 高齢者とヘルスプロモーション 11.12. 高齢者の生活の場における看護 13. エンド・オブ・ライフケア 14. 高齢者のリスクマネージメント 15. 試験								
教科書	系統別看護学講座 専門分野 老年看護学 （医学書院）								
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 （医学書院） 国民衛生の動向 （厚生統計出版会）								
評価方法	筆記試験・課題								
備考	講義後半では、地域の高齢者へのレクリエーション活動を行います。								

授業科目	看護情報学Ⅱ（統計学）	単位数	1	時間数	15										
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	2	開講学期	1								
科目目標	保健医療情報を理解するために必要な統計の知識を身につけ、Excel を操作してデータの基本的な統計解析、結果提示を行う能力を養う														
授業計画・授業内容															
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. Excel の基本操作、 図表の作り方、データの入力と表示</td> <td style="width: 50%; border: none;">5. 統計的検定、仮説、有意水準、過誤</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2. データの種類、代表値とばらつき、Excel 関数</td> <td style="border: none;">6. 平均の検定、割合（比率）の検定、 度数の検定</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. 度数分布と正規分布、母集団と標本、標準誤差</td> <td style="border: none;">7. 相関と回帰</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4. 統計的推定、95%信頼区間</td> <td style="border: none;">8. 課題による演習試験</td> </tr> </table>								1. Excel の基本操作、 図表の作り方、データの入力と表示	5. 統計的検定、仮説、有意水準、過誤	2. データの種類、代表値とばらつき、Excel 関数	6. 平均の検定、割合（比率）の検定、 度数の検定	3. 度数分布と正規分布、母集団と標本、標準誤差	7. 相関と回帰	4. 統計的推定、95%信頼区間	8. 課題による演習試験
1. Excel の基本操作、 図表の作り方、データの入力と表示	5. 統計的検定、仮説、有意水準、過誤														
2. データの種類、代表値とばらつき、Excel 関数	6. 平均の検定、割合（比率）の検定、 度数の検定														
3. 度数分布と正規分布、母集団と標本、標準誤差	7. 相関と回帰														
4. 統計的推定、95%信頼区間	8. 課題による演習試験														
教科書	適宜講師より紹介														
参考書	Excel で学ぶ医療・看護のための統計入門（東京図書）														
評価方法	試験時間内にエクセルを用いて提出された演習課題を評価														
備考															

授業科目	論文作成技法	単位数	1	時間数	15										
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	2	開講学期	1								
科目目標	論理的思考に基づいた論文作成能力を養う														
授業計画・授業内容															
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. 文章を書くというプロセスに目を向ける</td> <td style="width: 50%; border: none;">5. 文章への鑑識眼を養う</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2. 問いを作る</td> <td style="border: none;">6. 文章を実際を書く</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. 情報を整理する</td> <td style="border: none;">7. お互いの文章を読む</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4. アウトラインを作る</td> <td style="border: none;">8. 試験</td> </tr> </table>								1. 文章を書くというプロセスに目を向ける	5. 文章への鑑識眼を養う	2. 問いを作る	6. 文章を実際を書く	3. 情報を整理する	7. お互いの文章を読む	4. アウトラインを作る	8. 試験
1. 文章を書くというプロセスに目を向ける	5. 文章への鑑識眼を養う														
2. 問いを作る	6. 文章を実際を書く														
3. 情報を整理する	7. お互いの文章を読む														
4. アウトラインを作る	8. 試験														
教科書	講師作成資料														
参考書															
評価方法	レポート試験（詳細は講義時に説明）														
備考															

授業科目	哲学	単位数	1	時間数	15										
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	2	開講学期	2								
科目目標	日常生活や（やがて身を置くことになる）職業実践の場で「自らが受け入れている道徳原則間の衝突」に遭遇する可能性があることを理解するとともに、そうした衝突を解決することの困難さや悩ましさを了解するのが目標です														
授業計画・授業内容															
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 哲学とはどのような営みか／道徳と倫理の違い</td> <td style="width: 50%;">5. 「嘘をつく」とはどのようなことか？</td> </tr> <tr> <td>2. 帰結主義と非帰結主義／功利主義</td> <td>6. 嘘をつくことの是非について</td> </tr> <tr> <td>3. 哲学的思考を体験する（その1） 語の定義に関する問い</td> <td>7. 職業の現場で嘘をつくこと、 そして日常生活において嘘をつくこと</td> </tr> <tr> <td>4. 哲学的思考を体験する（その2） 行為の是非に関する問い</td> <td>8. 試験</td> </tr> </table>								1. 哲学とはどのような営みか／道徳と倫理の違い	5. 「嘘をつく」とはどのようなことか？	2. 帰結主義と非帰結主義／功利主義	6. 嘘をつくことの是非について	3. 哲学的思考を体験する（その1） 語の定義に関する問い	7. 職業の現場で嘘をつくこと、 そして日常生活において嘘をつくこと	4. 哲学的思考を体験する（その2） 行為の是非に関する問い	8. 試験
1. 哲学とはどのような営みか／道徳と倫理の違い	5. 「嘘をつく」とはどのようなことか？														
2. 帰結主義と非帰結主義／功利主義	6. 嘘をつくことの是非について														
3. 哲学的思考を体験する（その1） 語の定義に関する問い	7. 職業の現場で嘘をつくこと、 そして日常生活において嘘をつくこと														
4. 哲学的思考を体験する（その2） 行為の是非に関する問い	8. 試験														
教科書	講師作成資料														
参考書															
評価方法	筆記試験 講義参加度														
備考	授業時の自発的発言は高く評価します														

授業科目	教育学	単位数	1	時間数	15														
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	2	開講学期	2												
科目目標	望ましい人間形成の在り方、人間の可能性を引き出すための教育の意義・方法を理解し、看護における教育的活動に応用できる能力を養う																		
授業計画・授業内容																			
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 教育学とは 教育の本質</td> <td style="width: 50%;">5. 発達によって獲得されるもの</td> </tr> <tr> <td>2. 自然的発達からみた教育「産・育」</td> <td>「頭が良い」とはどういうことか？</td> </tr> <tr> <td>3. 自然的発達からみた教育「訓」「教」</td> <td>6. 発達によって獲得されるもの</td> </tr> <tr> <td>4. 発達段階 自然的発達と社会的、文化的発達 プレゼンテーションについて</td> <td>社会的、文化的発達と人間的発達</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7. 家庭教育、学校教育、社会教育</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8. プレゼンテーション</td> </tr> </table>								1. 教育学とは 教育の本質	5. 発達によって獲得されるもの	2. 自然的発達からみた教育「産・育」	「頭が良い」とはどういうことか？	3. 自然的発達からみた教育「訓」「教」	6. 発達によって獲得されるもの	4. 発達段階 自然的発達と社会的、文化的発達 プレゼンテーションについて	社会的、文化的発達と人間的発達		7. 家庭教育、学校教育、社会教育		8. プレゼンテーション
1. 教育学とは 教育の本質	5. 発達によって獲得されるもの																		
2. 自然的発達からみた教育「産・育」	「頭が良い」とはどういうことか？																		
3. 自然的発達からみた教育「訓」「教」	6. 発達によって獲得されるもの																		
4. 発達段階 自然的発達と社会的、文化的発達 プレゼンテーションについて	社会的、文化的発達と人間的発達																		
	7. 家庭教育、学校教育、社会教育																		
	8. プレゼンテーション																		
教科書	講師作成資料																		
参考書																			
評価方法	筆記試験 プレゼンテーション(詳細は講義時に説明する)																		
備考	全時間オンライン授業																		

授業科目	心理学	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師	実務経験	臨床カウンセリング	学年	2	開講学期	1
科目目標	人間の心と行動の関係が理解できる						
授業計画・授業内容							
1. 心理学とは 心理学の歴史・心理学の方法 2. 知覚 感覚と知覚 図と地・錯視・いろいろな知覚 3. 記憶と学習、感情・動機づけ 性格と性格の測定法 4. 社会と集団 5. 発達—乳幼児から青年期、成人・高齢者 6. カウンセリング・心理療法 7. ストレス・マネジメント 医療・看護と心理、対人援助職のための セルフケア 8. 試験							
教科書	系統別看護学講座 基礎分野 心理学 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験・レポート・出席状況による総合評価						
備考	講義を中心にグループワークなどを取り入れ、毎回講義後に小レポートを課す						

授業科目	社会学	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	2	開講学期	1
科目目標	社会的な存在としての人間の意義と行動を理解する						
授業計画・授業内容							
1. 人間の集合体としての社会 2. あたりまえってなんだろう？ 3. 身体を社会学する 1 4. 身体を社会学する 2 5. 感情を社会学する 6. ジェンダーという視点 7. 社会学的視点 8. 試験							
教科書	講師作成資料						
参考書	中島さおり著：パリの女は産んでいる、ポプラ社、2005年 渡辺一史著：こんな夜更けにバナナかよ、北海道新聞社、2003年※講談社ノンフィクション賞受賞 大野更紗著：困っているひと、ポプラ社、2010年 A.R.ホックシールド著・石川准他訳：管理される心、世界思想社、2000年						
評価方法	筆記試験 90%・平常点 10%で総合評価						
備考	参考図書にはいずれも医療の問題と重なりあう点が多く、また読み物としてもおもしろい本を挙げました。看護師を目指す皆さんにはぜひ読んでほしい本です。事前に読むようにしてください。						

授業科目	医療英語・英会話	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	2	開講学期	1
科目目標	医療現場における日常英会話力を身につける						
授業計画・授業内容							
1. 外来問診票、初診患者への対応、個人に関する一般情報、患者さんの話を聞き取るためのヒント 2. バイタルサイン測定や数値の読み方、身体検査時の患者への指示等を 英語で発音 3. 症状・痛み・期間・既往歴・薬等の患者への質問や指示などを英語で発音 4. 患者への症状に関する質問や検査時の指示などを英語で発音 5. 病院で患者との会話を英語で発音 6. 患者さんへ院内の案内などを英語で発音 7. 医療に関する単語の発音方法、症状や部位、患者への指示など 8. 試験							
教科書	現場ですぐに役に立つ！実践メディカル英会話（メディカ出版）						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	保健体育	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師	実務経験	有	学年	2	開講学期	1
科目目標	健全な生活を創造するための体育の意義を理解するとともに、体力を増強し、健全な身体の発達をはかり、生涯スポーツへの理解を得る						
授業計画・授業内容							
1. 健康維持にとってのスポーツの役割 1) 運動の目的 2) 健康管理と運動 3) 発達段階・性別・経験にあわせた運動の必要性 2.3. 健康な生活を送るために必要な身体運動の実際（演習） 1) 有酸素運動と無酸素運動 2) 柔軟性 4. スポーツとしての運動：バレーボール 5. スポーツとしての運動：野球 6. スポーツとしての運動：サッカー 7. スポーツとしての運動：バドミントン 8. 確認テスト							
教科書							
参考書							
評価方法	スポーツテスト他						
備考	運動の実技は体育館（5階講堂）・野外運動場にて実施する						

授業科目	人体の構造と機能Ⅲ（演習）			単位数	1	時間数	15
担当者名	外部講師・専任教員	実務経験	有	学年	2	開講学期	2
科目目標	1. 系統的に学んだ人体の構造と機能の理解を基に、統合した人体の理解ができる 2. 人間の尊厳についての考えを深めるとともに、専門職としての自覚を高める						
授業計画・授業内容							
1.2 統合体としての人体の理解 グループワーク 3.4. 統合体としての人体の理解 学習のプレゼンテーション 5. 献体された方々の思いと専門職としての心構え 6.7. 解剖演習 8. 学習のまとめ							
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学（医学書院） カラーアトラス人体 解剖と機能（医学書院）						
参考書							
評価方法	レポート他						
備考	人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱの学習を深められるよう、主体的に学習をしてください。 解剖演習は鳥取大学医学部で行います。						

授業科目	疾病論V (眼・耳鼻咽喉・歯科口腔)			単位数	1	時間数	15
担当者名	病院医師・外部講師 (医師)	実務経験	臨床での診療	学年	2	開講学期	1
科目目標	健康障害時の対象を理解するために各系統別に代表する疾患、診断、治療及び検査を学ぶ						
授業計画・授業内容							
眼：外部講師 (医師) 1. 眼の症状とその病態生理 2. 眼の検査・診断と治療・処置 3. 白内障・緑内障 4. 網膜剥離・糖尿病網膜症 5. 試験				歯科口腔：病院医師 11. 歯科口腔の症状 12. 歯科口腔の病態生理 13. 歯科口腔の検査・診断と治療 14. 口腔ケアの重要性 15. 試験			
耳鼻咽喉：病院医師 6. 鼻・副鼻腔の構造と役割 7. 喉頭・下咽頭の構造と役割 8. 耳の働き、耳鼻咽喉の症状とその病態生理 9. 耳鼻咽喉の検査・診断と治療・処置 10. 試験							
教科書	ナーシンググラフィカ Ex 疾患と看護 ⑥眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 (メディカ出版)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	疾病論VI (精神)			単位数	1	時間数	15
担当者名	外部講師 (医師)	実務経験	臨床での診療	学年	2	開講学期	1
科目目標	主な精神障害と精神症状がある対象とその治療方法を理解する						
授業計画・授業内容							
1. 統合失調症 2. 気分障害 3. 神経症性障害 4. パーソナリティ障害、器質性精神病、 てんかん				5. 知的障害、小児の精神障害 6. 依存症 7. おもな精神科治療 8. 試験			
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の基礎 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	社会福祉論			単位数	2	時間数	30																
担当者名	外部講師 (MSW)	実務経験	臨床でのMSW業務	学年	2	開講学期	1																
科目目標	変化する社会の動向に伴う医療に関する社会福祉・社会保障制度の活用方法を理解する																						
授業計画・授業内容																							
<table border="0"> <tr> <td>1. 社会保険制度と社会福祉</td> <td>9. 社会保健</td> </tr> <tr> <td>2. 現代社会の変化</td> <td>10. グループホームとは</td> </tr> <tr> <td>3. 社会保険制度</td> <td>11. 介護保険制度</td> </tr> <tr> <td>4. 医療保険制度</td> <td>12. 個別援助技術 (ケースワーク)</td> </tr> <tr> <td>5. 高齢者福祉</td> <td>13. 社会保障</td> </tr> <tr> <td>6. 障害者福祉</td> <td>14. 社会福祉実践</td> </tr> <tr> <td>7. 児童家庭福祉</td> <td>15. 社会福祉の歴史</td> </tr> <tr> <td>8. 試験(1~7)</td> <td>16. 試験(9~16)</td> </tr> </table>								1. 社会保険制度と社会福祉	9. 社会保健	2. 現代社会の変化	10. グループホームとは	3. 社会保険制度	11. 介護保険制度	4. 医療保険制度	12. 個別援助技術 (ケースワーク)	5. 高齢者福祉	13. 社会保障	6. 障害者福祉	14. 社会福祉実践	7. 児童家庭福祉	15. 社会福祉の歴史	8. 試験(1~7)	16. 試験(9~16)
1. 社会保険制度と社会福祉	9. 社会保健																						
2. 現代社会の変化	10. グループホームとは																						
3. 社会保険制度	11. 介護保険制度																						
4. 医療保険制度	12. 個別援助技術 (ケースワーク)																						
5. 高齢者福祉	13. 社会保障																						
6. 障害者福祉	14. 社会福祉実践																						
7. 児童家庭福祉	15. 社会福祉の歴史																						
8. 試験(1~7)	16. 試験(9~16)																						
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 (医学書院)																						
参考書																							
評価方法	筆記試験																						
備考																							

授業科目	看護倫理			単位数	1	時間数	15												
担当者名	専任教員 外部講師	実務 経験	臨床看護実践・教育 臓器ネットワークコーディネーター	学年	2	開講学期	1												
科目目標	看護実践につながる看護倫理とは何かを学び、自分で考え、看護者として必要な能力の基盤を身につける																		
授業計画・授業内容																			
<table border="0"> <tr> <td>1. 看護倫理を学ぶ意義</td> <td>7. 臓器移植をめぐる倫理的課題</td> </tr> <tr> <td>2. 看護倫理とはなにか</td> <td>8. 試験</td> </tr> <tr> <td>3. 専門職の倫理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 倫理的問題へのアプローチ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 看護研究の倫理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 事例検討</td> <td></td> </tr> </table>								1. 看護倫理を学ぶ意義	7. 臓器移植をめぐる倫理的課題	2. 看護倫理とはなにか	8. 試験	3. 専門職の倫理		4. 倫理的問題へのアプローチ		5. 看護研究の倫理		6. 事例検討	
1. 看護倫理を学ぶ意義	7. 臓器移植をめぐる倫理的課題																		
2. 看護倫理とはなにか	8. 試験																		
3. 専門職の倫理																			
4. 倫理的問題へのアプローチ																			
5. 看護研究の倫理																			
6. 事例検討																			
教科書	系統看護学講座 別巻 看護倫理 (医学書院)																		
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 看護学概論 (医学書院)																		
評価方法	筆記試験																		
備考																			

授業科目	看護理論	単位数	1	時間数	15		
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期	2
科目目標	看護理論について学習し、主要概念を理解することで、自己の看護観形成の基礎とする						
授業計画・授業内容							
1. 看護理論とは 1) 理論の構成要素（前提、概念、命題） 2) 理論の種類 3) 看護理論の変遷：看護理論の背景・意義 2. 主な看護理論の構成概念とその活用（グループ演習） ナイチンゲール・ヘンダーソン・ウィーデンバック オレム・ペプロウ・トラベルビー・ロジャーズ 等 3. 中範囲理論を用いた事例検討（個人ワーク） 2年次臨地実習での看護実践場面について 中範囲理論等を用いて記述する 1) 理論の構成概念 2) 理論構築の背景 3) 事例検討：事例紹介、結果および考察							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 看護学概論（医学書院） 看護実践に活かす中範囲理論（メヂカルフレンド社）						
参考書	適宜紹介する						
評価方法	課題レポート、グループワークへの参加度と課題成果により総合評価						
備考							

授業科目	創傷管理と検査・処置における技術		単位数	1	時間数	30	
担当者名	病院 認定看護師 専任教員	実務経験	認定看護師・ 臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期	1
科目目標	患者が安全・安心して処置、および検査・治療が受けられるように援助するための方法を理解する						
授業計画・授業内容							
担当：認定看護師（6） 1. 創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識 2.3. 演習：褥瘡ケア 4. 演習：包帯法（巻軸帯・三角巾固定） 担当：専任教員（24） 5.～8. 診察・検査・処置の介助技術 1) 診察の介助、検査・処置の介助 2) X線、CT、MRI、エコー検査、肺機能検査他 3) 内視鏡検査 4) 穿刺 9.10. 検査を受ける患者の看護 内視鏡検査の検査前～検査後の看護 11.～14. 静脈血採血法（演習を含む） 15. 試験							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）						
参考書	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術（医学書院） 説明できる 検体検査・生体検査 アセスメント・ケアにつながる！（学研）						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	呼吸・循環調整と生体機能のモニタリング	単位数	1	時間数	30		
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期	1
科目目標	生命活動を支える呼吸・循環・体温調整および生体機能のモニタリングの技術を理解する						
授業計画・授業内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸管理の基礎知識 2. 呼吸困難とアセスメント 3. 酸素療法（酸素吸入療法） <ol style="list-style-type: none"> 1) 中央配管方式 2) 酸素ボンベ 4. 排痰ケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 体位ドレナージ 2) 咳嗽介助、ハフィング 3) 吸引（一時的吸引：口腔・鼻腔・気管内吸引） 5.6. 演習：口腔・鼻腔・気管内吸引の実際 7. 胸腔ドレナージ 8. 吸入 9. 人工呼吸療法 10. 体温管理の技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発熱時の援助 2) うつ熱時の援助（熱中症） 3) 低体温時の援助 11. 末梢循環促進ケア 12. 救命救急処置技術 13.14. 演習：一時救命処置・止血法 15. 試験 							
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 基礎看護技術II (医学書院) 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	与薬に伴う援助技術			単位数	1	時間数	30
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期	1
科目目標	1. 薬物療法の意義・目的が理解する 2. 薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法を習得する 3. 安全に与薬を行うシステムのあり方について理解する						
授業計画・授業内容							
1. 与薬に関する基礎知識 1) 剤形と投与経路 2) 法律と管理 3) 看護師の責任と役割 2.3. 与薬の適応と原則 1) 誤薬・誤認防止 2) 経口・口腔内与薬 3) 吸入 4) 点眼 5) 点鼻 6) 塗布 7) 直腸内与薬法 4. 注射の適応と原則 1) 注射の種類と特徴 2) 物品の取り扱い 3) 安全対策 5.6. 演習：注射器の取り扱いと薬液の吸い上げ 7. 注射法の実際 1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉内注射 8.9. 演習：筋肉内注射の実際 10. 注射法の実際 1) 静脈内注射 2) 点滴静脈内注射の管理 11.12. 演習：点滴静脈内注射の実際 13. 注射法の実際 1) 中心静脈カテーテル 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 14. 演習：輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い 15. 輸血の管理 16. 試験							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術・vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)						
参考書							
評価方法	筆記試験・課題						
備考	解剖生理学、看護の中の物理、薬理学の知識が必要になりますので、予習復習をして講義に臨んでください。注射針を使用しますので事故を起こさないように十分留意して臨んでください。注射針の使用は安全のために教員のもとで行いますので、自主的に学生のみで時間外に演習を行うことはできません。						

授業科目	地域・在宅看護概論	単位数	1	時間数	15		
担当者名	専任教員	実務経験	無	学年	2	開講学期	1
科目目標	地域・在宅看護論の対象と看護の基本となる概念を理解する						
授業計画・授業内容							
1.2. 地域・在宅看護の対象				5.6. 看護が提供される多様な場と連携			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らすすべての人々 ・健康状態（健康のよい状態～終末期まで） ・発達段階（胎児期～老年期まで） ・家族 				<ul style="list-style-type: none"> ・病院（外来、入院）、診療所 ・療養通所介護事業所 ・看護小規模多機能型居宅介護 ・地域包括支援センター ・居宅（自宅、施設） ・訪問看護事業所 ・通所サービス ・介護施設、老人保健施設 等 			
3.4. 健康と暮らしを支える看護				7. 地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムにおける看護の役割 ・自助／互助／共助／公助の意義と役割 ・家族を支える看護 ・多職種連携、協働の意義と方法 				<ul style="list-style-type: none"> ・医療保険・介護保険制度と施策 ・訪問看護に関する法と制度 ・権利保障における法と施策 ・各保健・障害者等に関する法と施策 			
				8. 試験			
教科書	系統別看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	家族看護論	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師（前大学教授）	実務経験	有	学年	2	開講学期	2
科目目標	家族全体を看護の対象として捉え、家族の機能を高めるための看護の考え方や方法について学ぶ						
授業計画・授業内容							
1. 家族看護とは				3. 家族看護を支える理論と介入法			
2. 家族看護の対象理解				1) 家族を理解するための理論			
1) 家族とは				(1) 家族システム理論 (2) 家族ストレス対処理論			
2) 家族構造				(3) 家族発達理論			
3) 家族機能				4.～6. 家族看護展開方法（事例演習）			
4) 現代の家族とその課題				1) 経過に応じた対象の家族看護			
				2) 成長発達段階に応じた家族の看護			
				7. 試験			
教科書	系統別看護学講座 別巻 家族看護学 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験・演習課題						
備考							

授業科目	地域・在宅看護技術	単位数	1	時間数	15		
担当者名	専任教員	実務経験	無	学年	2	開講学期	2
科目目標	健康障害を持ちながら、地域で療養する人々とその家族の看護技術について理解する						
授業計画・授業内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 暮らしの場で看護をするための心構え 2. 地域・在宅看護における安全を守る看護 3～6. 地域における暮らしを支える看護実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 暮らしにおける食への援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 経口摂取の援助 (2) 経管栄養法 (3) 在宅中心静脈栄養 (HPN) 2) 暮らしに排泄への援助 3) 暮らしにおける清潔への援助 4) 暮らしにおける活動と休息への援助 7. 呼吸・循環における威容管理レベルの高い療養者の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅酸素療法 (HOT) 2) 非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) 3) 気管切開下陽圧換気(TPPV) 4) 在宅人工呼吸療法(HMV) 8. 試験 							
教科書	系統別看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実践 (医学書院)						
参考書	写真でわかる訪問看護アドバンス (インターメディカ)						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	地域・在宅看護実践方法論Ⅰ（地域におけるケア）			単位数	1	時間数	15
担当者名	外部講師（保健師・看護師） 専任教員	実務 経験	地域保健師業務 地域保健業務 無	学年	2	開講学期	2
科目目標	地域で暮らす人々の生活と健康を守る活動の実際と看護の役割について理解する						
授業計画・授業内容							
<p>担当：外部講師（保健師）（4）</p> <p>1.2. 保健センターの役割と機能</p> <p>1) 健康の保持増進・疾病の予防に関わる政策と看護</p> <p>2) 地域における政策と保健事業の実際</p> <p>3) 個別・集団指導の実際</p> <p>担当：外部講師（看護師）（6）</p> <p>3.～5. 地域包括支援センターの役割と機能</p> <p>1) 地域包括ケアシステムと「自助／互助／共助／公助」</p> <p>2) 地域包括支援センターの役割と機能</p> <p>3) 地域包括支援センターの活動の実際</p> <p>4) 介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント</p> <p>5) 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働</p> <p>担当：専任教員（5）</p> <p>6.7. 地域で暮らす人々を支える主体的な活動</p> <p>1) 活動と支援の実際</p> <p>2) 地域で暮らす人々を支える看護の役割</p> <p>8. 試験</p>							
教科書	系統別看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤（医学書院） 系統別看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実際（医学書院）						
参考書							
評価方法	筆記試験・レポート課題						
備考							

授業科目	地域・在宅看護実践方法論II (訪問看護の実際)			単位数	1	時間数	30
担当者名	病院 看護師長・看護師 外部講師 (訪問看護管理者)	実務 経験	地域連携業務 訪問看護実践 訪問看護実践	学年	2	開講学期	2
科目目標	健康に障害を持ちながら地域で暮らす療養者とその家族の看護について理解する						
授業計画・授業内容							
<p>担当：看護師長</p> <p>1.2. 在宅療養準備期の看護</p> <p>1) 退院調整と退院支援</p> <p>2) 退院調整における多職種連携</p> <p>3) 地域連携室の役割と実際</p> <p>担当：看護師</p> <p>3.～9. 地域・在宅看護における時期別の看護 (在宅酸素療法中の療養者やがんを罹患した療養者などの事例を基に)</p> <p>1) 在宅療養移行期の看護</p> <p>2) 在宅療養安定期の看護</p> <p>3) 急性増悪期の看護</p> <p>4) 終末期の看護 (グリーフケアを含む)</p> <p>担当：外部講師 (訪問看護ステーション管理者)</p> <p>10.～14. 地域・在宅看護の実際</p> <p>1) 認知症の人と家族を支える地域・在宅看護</p> <p>15. 試験 (2)</p>							
教科書	系統別看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実際 (医学書院)						
参考書	系統別看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 (医学書院)						
評価方法	筆記試験・レポート課題						
備考							

授業科目	成人看護実践方法論Ⅲ (消化吸収と栄養代謝・女性生殖器に障害がある患者の看護)			単位数	1	時間数	30
担当者名	専任教員 病院 認定看護師	実務 経験	認定看護師 認定看護師	学年	2	開講学期	1
科目目標	健康障害時の対象に行う看護を理解するために、各系統別に代表する疾患から看護を学ぶ						
授業計画・授業内容							
<p>担当：専任教員、認定看護師</p> <p>1. 消化吸収と栄養代謝障害のある患者の看護 (20)</p> <p>1) 上部消化管疾患患者の看護</p> <p>(1) 食道がん、胃がん患者の看護 (2) 胃・十二指腸潰瘍患者の看護</p> <p>2) 肝臓・胆のう疾患患者の看護</p> <p>(1) 胆管炎、胆石症患者の看護 (2) ウイルス性肝炎、肝硬変、肝臓がん患者の看護</p> <p>3) 膵臓疾患患者の看護 (1) 膵炎、すい臓がん患者の看護</p> <p>4) 腸・腹膜疾患患者の看護 (1) 潰瘍性大腸炎、クローン病患者の看護</p> <p>5) ～8) ストーマ造設術を受ける患者の看護 (演習含む)</p> <p>(1) 術前ケア (2) 術後ケア (3) ストーマケア (4) 管理</p> <p>担当：認定看護師</p> <p>2. 女性生殖器に障害がある患者の看護 (8)</p> <p>1) 乳がん患者の特徴と看護の役割 2) 乳がんの治療とその看護</p> <p>3) 乳房切除術を受ける患者の看護</p> <p>(1) 乳がん患者の術後の経過と術後の補助治療の看護</p> <p>①ボディイメージの変容 ②乳房の補整 ③リンパ浮腫</p> <p>(2) 退院指導</p> <p>4) 演習：圧迫固定包帯 (バンテージ)</p> <p>3. 試験 (2)</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 女性生殖器 (医学書院)						
参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 成人看護学総論 (医学書院)						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	成人看護実践方法論Ⅳ (がん治療・緩和ケアを受ける患者の看護)			単位数	1	時間数	30
担当者名	病院 認定看護師	実務 経験	認定看護師 認定看護師 認定看護師・認定看護師	学年	2	開講学期	1
科目目標	健康障害時の対象に行う看護を理解するために、各系統別に代表する疾患から看護を学ぶ						
授業計画・授業内容							
<p>担当： 認定看護師 (10)</p> <p>1. がん治療を受ける患者の看護：化学療法</p> <p>1) がん化学療法に伴う骨髄抑制と看護ケア 2) がん化学療法に伴う末梢神経障害と看護ケア</p> <p>3) 事例検討 がん化学療法を受ける患者の看護</p> <p>4) 化学療法概論 投与管理・暴露対策・支持療法 (悪心・嘔吐)</p> <p>5) 副作用対策 (悪心・嘔吐)、暴露対策</p> <p>担当： 認定看護師 (7)</p> <p>2. がん治療を受ける患者の看護：放射線治療</p> <p>1) 放射線科の紹介、放射線療法について 2) 被曝防護と放射線治療、有事事象について</p> <p>3) 急性有害事象、骨転移について</p> <p>担当： 認定看護師 (13)</p> <p>3. 緩和ケアを受ける患者の看護</p> <p>1) 緩和ケアとは 2) 家族ケア・グリーケア</p> <p>3) エンゼルケア (演習含む) 4) 緩和ケアの現状</p> <p>5) 症状マネジメント 6) 事例検討</p> <p>3. 試験</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院)						
参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 成人看護学総論 (医学書院) 経過別看護過程の展開 (学研)						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	成人看護学演習	単位数	1	時間数	30		
担当者名	専任実習指導教員 専任教員	実務経験	臨床看護実践 臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期	1
科目目標	健康障害のある患者の事例をとおして、患者の状態を判断し、健康上の問題・課題の解決をはかるための援助とその実践方法を学ぶ						
授業計画・授業内容							
<p>周手術看護 担当：専任実習指導教員</p> <p>1.2. 健康レベルに対応した看護の方向性の導きだし方</p> <p>1) 急性期と急性期看護</p> <p>2) 周術期看護（術前・術中・術後）</p> <p>3.4. 周手術期にある成人患者への看護実践</p> <p>1) 周手術期の身体侵襲の理解</p> <p>2) 術後合併症の予防の看護</p> <p>3) 手術に向けた準備</p> <p>(1)身体準備 (2)オリエンテーション</p> <p>5.6. 手術侵襲による生体反応</p> <p>1) 術後合併症 2) 演習：術前アセスメントと術前訓練・指導</p> <p>患者教育 担当：専任教員</p> <p>7.8. 健康レベルに対応した看護の方向性の導きだし方</p> <p>1) 慢性期とは、慢性期看護とは</p> <p>9.～11. 慢性期にある成人患者への看護実践</p> <p>1) 健康障害とともに生活する人への教育 2) 慢性症状に伴う苦痛の緩和や癒しのケア</p> <p>12.～15. 患者指導の方法・実践</p> <p>1) 演習：患者指導</p> <p>16. 試験 (2)</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 (医学書院)						
参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 成人看護学総論 (医学書院)						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	健康障害のある高齢者の看護		単位数	1	時間数	15	
担当者名	専任教員	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期	1
科目目標	高齢者の健康障害・疾患の特徴から高齢者に特有な症状・疾患・障害とその看護について学ぶ						
授業計画・授業内容							
<p>1.2. 高齢者のヘルスアセスメント</p> <p>1) ヘルスアセスメントの基本</p> <p>2) 身体の高齢変化とアセスメント</p> <p>3.~5. 健康逸脱からの回復を促す看護</p> <p>1) 症候のアセスメントと看護</p> <p>2) 身体疾患のある高齢者の看護</p> <p>3) 認知機能障害のある高齢者の看護</p> <p>6.~7. 治療を必要とする高齢者の看護</p> <p>1) 検査を受ける高齢者の看護</p> <p>2) 薬物療法を受ける高齢者の看護</p> <p>3) 手術を受ける高齢者の看護</p> <p>4) リハビリテーションを受ける高齢者の看護</p> <p>5) 入院治療を受ける高齢者の看護</p> <p>8. 試験</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)						
参考書	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)						
評価方法	筆記試験・課題						
備考							

授業科目	老年看護技術	単位数	1	時間数	30		
担当者名	専任教員 外部講師 (松江医療C看護師)	実務経験	臨床看護実践・教育 臨床看護実践	学年	2	開講学期	1
科目目標	高齢者の生活の質の維持・向上のための看護援助の基礎となる知識と技術を習得する						
授業計画・授業内容							
<p>担当：専任教員（22）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活を支える基本的活動 2. 高齢者の生活アセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 総合機能評価（CGA） 2) 基本的日常生活動作(BADL)・手段的日常生活動作(IADL) 3) 心理・情動機能 4) 生活環境 3. 高齢者とのコミュニケーション 4.5. 高齢者の食事・食生活、排泄ケア 6. 高齢者の清潔と衣生活 7. 高齢者の生活リズム（活動と休息） 8. 高齢者のセクシュアリティ・社会参加 9.10. 日常生活援助を受ける高齢者の看護 演習：経皮経管栄養法（胃瘻法）、口腔ケア <p>担当：外部講師（松江医療C 看護師）（8）</p> <ol style="list-style-type: none"> 11.～14. 入院している高齢者の看護実践（演習含む） <ol style="list-style-type: none"> 1) パーキンソン病患者の看護 2) ALS で人工呼吸管理を必要とする患者の看護 15. 試験 							
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 脳・神経（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院）						
参考書	写真でわかる高齢者ケア（インターメディカ）						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	老年看護実践方法論	単位数	1	時間数	30		
担当者名	病院 認定看護師 専任実習指導教員	実務経験	臨床看護実践 臨床看護実践 認定看護師	学年	2	開講学期	1
科目目標	老年期に特徴的な健康問題の事例から高齢者及びその家族に対する看護過程の展開方法を学ぶ						
授業計画・授業内容							
<p>1.～14. 高齢者に多い疾患と看護実践過程 (8)</p> <p>担当：病院 認定看護師</p> <p>1～4. 1) 誤嚥性肺炎を生じた高齢者の看護</p> <p>担当：専任実習指導教員 (8)</p> <p>5～8. 2) 大腿骨頸部骨折を生じた高齢者の看護</p> <p>担当：病院 認定看護師 (12)</p> <p>9.～14. 3) 認知機能が低下した高齢者の看護</p> <p>15. 試験 (2)</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 運動器 (医学書院)						
参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 疾患別看護過程 (照林社)						
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	小児看護学概論	単位数	1	時間数	30		
担当者名	外部講師（前大学教授）	実務経験	有	学年	2	開講学期	2
科目目標	1. 小児各期の特徴と成長・発達について、身体的・精神的・社会的側面から理解する 2. 小児を取り巻く環境、社会、保険医療制度のしくみと関連づけ、発達段階に適した健康な生活と養護について理解する						
授業計画・授業内容							
1. 小児とは 2. 小児医療の変遷、小児看護と小児観の変遷 3. 小児の成長発達 4. 小児の栄養 5. 小児看護の理論 6.～9. 小児の成長発達 乳児・幼児・学童・思春期の成長発達 10. 小児と家族を取り巻く社会、小児保健と法律 11. 小児看護の機能と役割 子どもにとっての家族 12. 小児看護の機能と役割 障害をもつ小児と家族 13. 小児の状況（環境）に特徴づけられる看護 14. 子どもの最善の利益を目指した看護 15. 試験							
教科書	系統別看護学講座 専門分野 小児看護学 小児看護概論・小児臨床看護総論（医学書院）						
参考書							
評価方法	筆記試験・演習課題他で総合評価						
備考							

授業科目	健康障害のある小児の理解			単位数	1	時間数	30	
担当者名	病院 医師	実務経験	臨床での診療業務	学年	2	開講学期	1	
科目目標	1. 小児各期のあらゆる健康段階における対象と家族を理解する 2. 健康障害とその治療・処置がもたらす影響を理解し、看護実践に結びつける							
授業計画・授業内容								
1. 小児の成長と発達 2. アレルギー疾患 3. 代謝性疾患、内分泌疾患 4. 免疫疾患、リウマチ性疾患 5. 循環器疾患 6. 消化器疾患 7. 血液・造血器疾患、悪性新生物 8. 腎・泌尿器疾患、生殖器疾患 9. 神経疾患、運動器疾患、精神疾患 10. 新生児疾患 11. 感染症1：ウイルス感染症 12. 感染症2：細菌・真菌感染症 13. 呼吸器疾患、予防接種 14. 事故・外傷、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉科疾患、 マルチトリートメント 15. 試験								
教科書	系統別看護学講座 専門分野 小児看護学 小児看護概論・小児臨床看護総論（医学書院） 系統別看護学講座 専門分野 小児看護学 小児臨床看護各論（医学書院）							
参考書								
評価方法	筆記試験							
備考								

授業科目	小児看護技術			単位数	1	時間数	30
担当者名	病院 看護師 専任教員	実務経験	臨床看護実践 無	学年	2	開講学期	2
科目目標	小児特有の疾患、症状に応じた看護を学び、それに伴う特殊な看護技術の方法について成長・発達をふまえて理解する						
授業計画・授業内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション・バイタル測定・身体計測 2. 与薬・検査、処置とその介助 3. 小児救急処置 * 4. 検査・処置、外来から入院時の看護 5. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 6. 急性期・周手術にある子どもと家族の看護 7. 慢性期にある子どもと家族の看護 8. 終末期にある子どもと家族の看護 9. 障害のある子どもと家族の看護 10.11. 症状を示す小児への看護 12. 演習：小児のフィジカルアセスメント * 13. 演習：プレパレーション * 14. 健康障害を持つ子供の生活と看護 15. 試験 <p>* 担当：病院 看護師 (10 時間)</p>							
教科書	系統別看護学講座 専門分野 小児看護学 小児看護概論・小児臨床看護総論 (医学書院) 写真でわかる小児看護技術アドバンス (インターメディカ)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	小児看護実践方法論			単位数	1	時間数	30	
担当者名	専任教員 病院 看護師	実務 経験	無 臨床看護実践 臨床看護実践	学年	2	開講学期	2	
科目目標	<p>1. 小児各期の健康障害をもつ児と家族の看護を実践するため、知識を統合・発展させ、疾患の特徴となる経過を踏まえた看護過程の展開技術を学ぶ</p> <p>2. 看護過程の展開を通して、知識・技術を応用する能力を養い、小児看護の特徴を具体から学ぶ</p>							
授業計画・授業内容								
<p>担当：専任教員（2）</p> <p>1. 小児の看護過程の特徴 小児の看護過程の展開に必要な知識・情報の必要性</p> <p>2.～9. 各発達段階別・疾患の特徴及び経過別のアセスメントの特徴</p> <p>2.～9. 担当：病院看護師（17）</p> <p>1) 川崎病の患児の看護 急性疾患の症状、処置による心身の苦痛の強い時期～回復期の看護</p> <p>2) ネフローゼ症候群・急性糸球体腎炎の患児の看護 ：発症から在宅（外来通院）に向けての看護 *生活指導を含む</p> <p>10.～12. 担当：病院看護師 他（6）</p> <p>3) 重症心身障害児の看護（演習を含む） *社会福祉制度を含む</p> <p>13.14. 看護過程の実際 担当：専任教員（4）</p> <p>1) 小児気管支喘息の看護</p> <p>2) 小児白血病の看護 事例をもとに看護問題に合わせた看護計画</p> <p>15. 試験（1）</p>								
教科書	<p>系統別看護学講座 専門分野 小児看護学 小児看護概論・小児臨床看護総論（医学書院）</p> <p>系統別看護学講座 専門分野 小児看護学 小児臨床看護各論（医学書院）</p>							
参考書	写真でわかる小児看護技術アドバンス（インターメディカ）							
評価方法	筆記試験							
備考	手術療法時の看護は経過・治療処置別で学習する							

授業科目	母性看護学概論		単位数	1	時間数	30	
担当者名	外部講師（助産師）	実務経験	臨床助産実践 臨床での診療	学年	2	開講学期	1
科目目標	1. 母子保健の現状を把握し、母性をとりまく社会状況、女性の生き方の変化や、少子社会の現状などについて理解する 2. 母性の概念と母性看護の対象を理解し、母性看護の目的や役割を学ぶ 3. 高度生殖補助医療の発展に伴い、不妊治療を受ける対象や、出生前診断について理解する						
授業計画・授業内容							
担当： <ul style="list-style-type: none"> 1.2. 母性看護の基盤となる概念 3. 母性看護の変遷と母子保健統計 4. 母性看護における法律・施策 5. 性と生殖のメカニズム・月経周期 6.7. 演習：妊婦体験 8.9. 女性のライフステージ各期における看護 思春期、成熟期、更年期・老年期 10.11.12.13. リプロダクティブヘルスケア <ul style="list-style-type: none"> ① 家族計画 ② 性感染症とその予防 ③ HIVに感染した女性に対する看護 ④ 人工妊娠中絶と看護 ⑤ 喫煙と女性の健康 ⑥ 性暴力を受けた女性に対する看護 ⑦ 児童虐待と看護 ⑧ 国際化社会と看護 14. 遺伝と出生前診断、生殖医療と不妊 15. 試験 							
教科書	系統看護学講座 母性看護学 母性看護学概論 （医学書院） 国民衛生の動向 （厚生統計協会）						
参考書							
評価方法	筆記試験・グループワーク課題で総合評価						
備考							

授業科目	妊産褥婦・新生児の理解			単位数	1	時間数	30
担当者名	外部講師(医師)	実務経験	臨床での診療	学年	2	開講学期	1-2
科目目標	正常な妊娠・分娩・産褥の各期および新生児の生理について理解する						
授業計画・授業内容							
担当：鎌澤 俊二 1. 妊娠の生理 2. 胎児発育とその生理 3. 母体の生理的变化 4. 妊娠期に行う検査とその目的 5. 妊婦の保健指導 6. 試験(1～5)				担当：井庭 裕美子 13. 新生児とは 14. 新生児の機能 15. 新生児における一般的なケア 16. 新生児の診断 17. 新生児の健康状態 18. 試験(13～17)			
担当：井庭 貴浩 7. 分娩の3要素 8. 分娩時出血 9. 胎児心拍モニタリング 10. 帝王切開・異常分娩 11. 産婦の身体的変化 12. 試験(7～11)							
教科書	系統看護学講座 母性看護学 母性看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 母性看護学 母性看護各論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 (メヂカルフレンド社)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	母性看護実践方法論 I (正常妊産褥婦と新生児の看護)			単位数	1	時間数	30
担当者名	外部講師 (助産師) 専任教員	実務 経験	臨床助産実践 無	学年	2	開講学期	2
科目目標	1. 正常な妊娠・分娩・産褥の各期および新生児に対しての看護を実践するための援助方法を理解する 2. 正常からの逸脱を早期発見できるよう、事例を用いてウェルネスな視点で看護実践する方法を学ぶ						
授業計画・授業内容							
担当：鳥取大学医学部附属病院 助産師				担当：濱田 美由紀			
1. 妊婦健康診断と観察項目 (子宮底測定・腹囲測定)		4. レオポルド触進法と胎児心拍モニタリング装着方法		5. 分娩の3要素の観察とアセスメント (胎盤計測方法)		6. 分娩経過のアセスメントと産婦のニーズに関する援助 (産痛緩和)	
7. 産褥期の退行性変化の観察とアセスメント (子宮底・悪露の観察方法)		8. 産褥期の進行性変化の観察とアセスメント (乳房の観察方法)		9. 母乳育児支援方法 (授乳方法・排気方法)		2. 3. 妊娠期の保健指導案作成と発表	
				10. 新生児の身体測定と諸検査について (バイタルサイン測定・身体計測・黄疸計測 その他検査方法)		11. 12. 新生児の沐浴演習 (更衣・オムツ交換含む)	
				13. 14. 事例展開		15. 試験	
教科書	系統看護学講座 母性看護学 母性看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 母性看護学 母性看護各論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 (メヂカルフレンド社)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	母性看護実践方法論II (周産期におけるハイリスク時の看護)		単位数	1	時間数	15	
担当者名	外部講師 (助産師)	実務 経験	臨床助産実践	学年	2	開講学期	2
科目目標	正常ではあるが異常へ移行する恐れのある妊産褥婦および新生児に対する看護の方法について理解する						
授業計画・授業内容							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠悪阻・重症妊娠悪阻妊婦の看護 切迫流産・切迫早産妊婦の看護 2. 前期破水・早期破水時の看護 妊娠高血圧症候群妊婦の看護 3. NST・CTGの異常 胎児機能不全NRF S 陣痛の異常 (微弱陣痛・過強陣痛) 4. マタニティブルーズの看護 子宮復古不全 帝王切開を受ける妊産褥婦・新生児の看護 5. 乳房トラブル時の看護 6. 新生児の低血糖・低体温・新生児黄疸 7. 流産・死産・新生児死亡におけるグリーフケア 8. 試験 							
教科書	系統看護学講座 母性看護学 母性看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 母性看護学 母性看護各論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 (メデカルフレンド社)						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	精神看護学概論	単位数	1	時間数	30		
担当者名	専任教員 外部講師（看護師）	実務経験	臨床看護実践・教育 訪問看護実践 他	学年	2	開講学期	1
科目目標	現代社会の現状から精神看護に求められていることについて理解する						
授業計画・授業内容							
<p>専任教員（15時間）・外部講師（看護師）（15時間）で実施する。</p> <p>1.～3. 精神看護学で学ぶこと①</p> <p>1) 精神看護学とは何か</p> <p>2) 精神障害をもつ人の病の体験と精神看護</p> <p>3) 「心のケア」と日本社会・精神看護の課題</p> <p>4.5. 精神保健の考え方</p> <p>1) 精神の健康とは・心身の健康に及ぼすストレスの影響</p> <p>2) 心的外傷（トラウマ）と回復・精神障害という考え方</p> <p>6.7. 社会のなかの精神障害</p> <p>1) 精神障害と治療の歴史・日本における精神医学と医療のながれ</p> <p>2) 精神障害と文化 多様性と普遍性・精神障害と社会学</p> <p>8.～12. ケアの人間関係</p> <p>1) ケア的前提・原則・方法 2) 関係をアセスメントする</p> <p>3) 患者－看護師関係における感情体験 4) 関係の視点からみた困難事例</p> <p>5) チームのダイナミクス</p> <p>13. 医療の場におけるメンタルヘルスと看護</p> <p>1) 身体疾患を持つ患者のメンタルヘルス 2) リエゾン精神看護とその活動の実際</p> <p>14.15. 回復を支援する</p> <p>1) 回復の意味・治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点</p> <p>2) リカバリーのビジョン・環境・グループ・プロセス</p> <p>3) さまざまな回復のためのプログラム</p> <p>16. 試験</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の展開 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験・課題レポート						
備考							

授業科目	精神の発達と健康	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師（臨床心理士）	実務経験	臨床カウンセリング	学年	2	開講学期	2
科目目標	精神の健康の保持増進を図るために、精神の発達や働きと健康との関連について理解する						
授業計画・授業内容							
<p>1.2. 心のはたらき①</p> <p>1) 意識と認知機能 2) 感情</p> <p>3) 学習と行動 4) 知能</p> <p>5) 心の理論 6) 心理的特性を図る検査</p> <p>3. 心のしくみと人格の発達①</p> <p>1) 人格と気質</p> <p>2) 意識と無意識－精神分析と精神力動理論</p> <p>3) よい乳房・わるい乳房－対象関係論</p> <p>4. 心のしくみと人格の発達②</p> <p>1) ライフサイクルとアイデンティティ</p> <p>－ エリクソンの発達理論</p> <p>2) 愛着と心の安全の基地</p> <p>－ ボウルビーの愛着理論</p> <p>3) 自己愛と自己対象理論</p> <p>－ コフートの自己心理学</p> <p>4) 「甘え」理論</p> <p>5. 関係のなかの人間①</p> <p>1) システムとしての人間関係</p> <p>2) 全体としての家族</p> <p>6. 関係のなかの人間②</p> <p>1) 家族の関係性とコミュニケーション</p> <p>2) 家族システムという考え方・</p> <p>家族ストレスと感情表出</p> <p>7. 人間と集団</p> <p>1) 集団と個人</p> <p>2) グループの活用</p> <p>－なぜグループなのか・全体としてのグループ</p> <p>3) 組織をグループとしてみる</p> <p>－組織のダイナミクスとしての人間関係</p> <p>8. 試験</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の展開 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験・課題レポート						
備考							

授業科目	地域精神保健福祉	単位数	1	時間数	15		
担当者名	外部講師（保健師）	実務経験	地域保健業務	学年	2	開講学期	2
科目目標	精神に障害をもつ人が安定した地域生活を継続するために必要な法制度や課題を理解する						
授業計画・授業内容							
<p>1.2. 精神障害と法制度①</p> <p>1) 精神看護における法律 2) 権利における法制度</p> <p>3) 精神科領域に必要な法律と制度 4) 権利擁護・医療を受けるための法律と制度</p> <p>5) 生活を支えるための法律と制度・情報のための法律と制度</p> <p>6) 個別の課題に対応した法律・法律・制度に関する課題</p> <p>3. おもな精神保健医療福祉対策とその動向</p> <p>1) 自殺対策 2) 依存症対策 3) 認知症対策</p> <p>4) その他の健康問題への対策</p> <p>4. 地域におけるケアと支援①</p> <p>1) 「器」としての地域 2) 地域における生活支援の方法</p> <p>5. 地域におけるケアと支援②</p> <p>1) 学校におけるメンタルヘルスと看護 2) 職場におけるメンタルヘルスと看護</p> <p>6. 災害時のメンタルヘルスと看護</p> <p>7. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス</p> <p>8. 試験</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の展開 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験・課題レポート						
備考							

授業科目	精神看護実践方法論	単位数	1	時間数		30	
担当者名	専任教員 外部講師 (鳥取医療C看護師)	実務経験	臨床での看護実践・教育 臨床での看護実践	学年	2	開講学期	2
科目目標	精神に障害により入院治療を受けている対象の看護を実践するための看護について学ぶ						
授業計画・授業内容							
<p>1. 入院治療の意味① 精神科を受診すること 治療の器としての病院・病棟 入院中の観察とアセスメント</p> <p>2. 入院治療の意味② ケアの方向性を考える 退院に向けての支援とその実際</p> <p>3.4. 入院治療の意味</p> <p>5. 身体をケアする① 精神科における身体のケア 精神科の治療に伴う身体のケア</p> <p>6. 身体をケアする② 身体合併症のアセスメントとケア 精神科における終末期ケア</p> <p>7.8. 安全を守る リスクマネジメントの考え方 緊急事態に対処する 緊急事態におけるスタッフの支援</p> <p>9.~15. 事例による精神看護過程</p> <p>16. 試験</p>							
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の展開 (医学書院)						
参考書							
評価方法	筆記試験・課題レポート						
備考							

授業科目	医療安全	単位数	1	時間数	15		
担当者名	病院 医療安全係長	実務経験	臨床での医療安全管理	学年	2	開講学期	1
科目目標	医療の質と安全を確保する為に、具体的に医療現場で行われる必要な業務を把握し、医療事故を未然に防ぐ知識と心構えを習得する						
授業計画・授業内容							
1. 医療事故について 2. 医療事故について（シリンジ・輸液ポンプ） 3. 輸血業務、内服薬業務、経管栄養（注入）業務 4. チューブ管理と事故防止、業務領域を超えて 共通する間違いと発生要因 5. 療養上の世話の事故防止 6. 医療安全とコミュニケーション① 7. 医療安全とコミュニケーション② 8. 試験							
教科書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 （医学書院）						
参考書							
評価方法	筆記試験						
備考							

授業科目	看護研究	単位数	1	時間数	15		
担当者名	専任教員	実務経験	教育	学年	2	開講学期	2
科目目標	看護研究の意義、研究の倫理、ならびに研究方法論についての理解を深め、物事について深く考えたり、調べたりすることの必要性を理解することで探求心を養い、研究的態度を身に付ける						
授業計画・授業内容							
1. 看護研究とは 看護研究のはじめ方 （リサーチクエスションの立て方） 2. 情報の探求と吟味 —文献レビューとその方法— 3. 研究における倫理的配慮、研究デザイン 4. データの収集、データの分析 5. 研究計画書の作成、研究の伝え方 （学会発表・論文作成など） 6. ケースレポート・事例研究の進め方 7. 調査研究の進め方、文献研究・実践報告の進め方 8. 試験							
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 （医学書院）						
参考書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 （照林社）						
評価方法	筆記試験						
備考							